

## 令和5年度「いじめ未然防止・不登校等児童生徒支援アドバイザー派遣事業」実践事例

### ●魅力ある学校づくりへ向けた主な実践と成果 【不登校数減少校：派遣校22校中11校】

<b>実践内容</b>	『いじめ重大事態』事案を教訓にした問題行動への対応
	<p>昨年度、「いじめ重大事態」事案が発生してしまったことを受け、再度指導の在り方について確認しながら進めている。場当たりの対応に終始することなく、未然防止から事案対応、事後指導までを1パッケージとして捉え、それぞれの場面でどのような指導が必要となるのか、研修を積んできた。校区の小中連携指導も大切にし、同じ研修を受けることで、どのような子どもたちを育てていきたいのか、共通理解しながら指導にあたることができるよう努めている。</p>
<b>成果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活での良い姿を積極的に発信することが、未然防止につながってきている。</li> <li>・事案発生時、帰宅前に指導することを徹底したことが、翌日からの落ち着きにつながっている。</li> <li>・事案発生後、保護者と継続的に面談を実施したところ、教育活動に対し協力的になってきた。</li> </ul>

<b>実践内容</b>	「道徳教育を柱にした温かい風土の醸成」
	<p>いじめ未然防止・不登校支援のために、道徳教育からアプローチすることを1つの柱としている。価値に迫る学びの中で、教師は意図的に称賛したり、前向きな言葉掛けを継続したりしている。また、価値の高い姿や良さを「校長賞」として賞状を授与するなど、全職員が同一歩調で子どもたちの心を育てている。自己肯定感や自己有用感を感じられるようになることを願い、実践を積み重ねてきたことが、学校全体の温かい雰囲気にもつながってきている。</p>
<b>成果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度不登校だった4名が登校できるようになった。</li> <li>・教師の言葉が、“指導すること”から“褒めること”へ変化してきた。</li> <li>・子どもの良さを認めるためによく観察することで、多面的な子ども理解ができるようになってきた。</li> </ul>

<b>実践内容</b>	「“自分らしさ”を大切にされた地域貢献活動」
	<p>自身の良さや強み、興味・関心を活かしながら、創造的な活動に取り組んでいくことを大切にしている。地域の祭りやイベントでは、企画段階から携わり、主体となって参加している。自ら挑戦したことを地域の方から認められ、「ありがとう」という言葉を聞くことができたとき、それが自己有用感に直結するものだと捉えている。学校便りには、学校へ寄せられる地域の声を掲載し、校内だけでなく地域の方へも配布することで、一体となって子どもたちを育てていくことを意識している。</p>
<b>成果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ありがとう」という言葉が活力となり、挑戦しようとする子どもたちが増えてきた。</li> <li>・アンケートにおいて、「地域をよくしていきたいか」の問いに対し、肯定的な回答が、昨年度47.0%から今年度83.6%と大幅に増加した。</li> <li>・新規不登校数が、昨年度7名から今年度5名に減少した。</li> </ul>

<b>実践内容</b>	「新規不登校数の抑制に向けて」
<p>年々不登校数が激増し、継続数のみならず新規数も増加し続けている現状を鑑み、今年度は新規不登校数の抑制に向けた取組を重点とした。グループエンカウンターを取り入れたり、図書館や中庭を整備したりすることで、安心できる居場所づくりの構築に取り組んでいる。また、子ども同士が必然的に関わることができるような各種大会を新規に企画するなど、絆づくりにも努めている。日常の授業でも、確実な見届けを徹底することで、個と集団を大切にする姿勢を貫いてきた。</p>	
<b>成果</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規不登校数が大幅に減少した。</li> <li>・子どもたちが考えや願いを伝え合うようになり、自治的な活動がうまれてきた。</li> <li>・一人一人を大切にし、子どもたちの思いを尊重しようとする教員が増えてきている。</li> </ul>	

<b>実践内容</b>	「相談室利用に対する学校支援体制」
<p>不登校支援として、相談室を利用する子どもたちや保護者との関わりを重視した支援体制を整えている。担任と生徒指導主事、教育相談担当が、常にチームとなって対応することで、互いに意見を出し合いながら方策を検討している。また、不登校支援の取組を学校経営方針にも位置づけ、担当者の授業時数を配慮するなど、アウトリーチ的な支援も可能となる体制を整えた。丁寧かつ迅速な対応を心がけ、子どもたちや保護者の安心感につなげていきたいと考えている。</p>	
<b>成果</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の意思を尊重した寄り添った対応を継続したことで、子どもたちや保護者から「信頼している」「期待している」という言葉が聞けるようになった。</li> <li>・入学や進級時、事前懇談を行うことで、年度初めの不登校数がすべての学年で減少した。</li> <li>・長期休業中、オンライン登校日を設けたことで、始業日の欠席者数が減少した。</li> </ul>	

<b>実践内容</b>	「校内教育支援センターによる支援」
<p>今年度より「校内教育支援センター」を設置した。不登校及び不登校傾向を示す子どもたちへの学習保障と社会的自立を目指すことを目的としている。教室には、支援担当職員を常駐し、個別スペースと交流スペースを設置した。登校時間や時間割の計画、教室での過ごし方を選択するなど、自己決定の場を確保している。また、タブレット端末を活用して学習したり、オンラインで授業に参加したりするなど、多様な学びの場も保証している。</p>	
<b>成果</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校だった子どもの欠席日数が大幅に減少したり、欠席の続いていた子どもがセンター登校できるようになったり、放課後登校からセンター登校に移行したりするようになった。</li> <li>・自分のペースで生活できるようになり、自己決定したことをやりきる場になっている。</li> <li>・利用する子どもたちのケース会を位置づけたことで、共通理解が図られ、支援が充実してきた。</li> </ul>	